

令和5年度第2回秋田県立博物館協議会議事録

- 1 開催日時 令和6年2月8日(木)
午前10時00分から午前12時00分まで
- 2 開催場所 秋田県立博物館 大会議室
- 3 出席者 21名
 - (1) 委員
上野 智明 委員
梅津 一史 委員
大塚 俊一 委員
木村 美穂 委員
佐々木美香 委員
佐藤 操 委員
高島 由美 委員
早川 敦 委員(協議会会長)
藤田 和彦 委員
本田 由香 委員
三河 直樹 委員
棟方 幸人 委員
湯澤 寛 委員(協議会副会長)
 - (2) 生涯学習課 糸田 和樹 生涯学習・学習振興チーム学芸主事
 - (3) 事務局(博物館) 伊藤 真 館長
高橋 司 副館長
新堀 道生 展示・資料班長
加藤 竜 普及・広報班長
山本 丈志 学習振興班主査
内田 隆仁 総務班長
佐藤 貴子 総務班副主幹
- 4 議事概要
 - (1) 開会
 - (2) 館長あいさつ
 - (3) 会長あいさつ
 - (4) 案件
 - ア 報告 令和5年度事業経過及び令和6年度事業計画(案)について
展示・資料班、普及・広報班、学習振興班より説明
報告についての委員からの意見及び質問に対する回答は次のとおり。

- (委員) 事業経過報告および次年度計画案の説明をしていただいたが、企画する方の思惑と見学する方の思惑が合致した場合、入館者数は増加すると思う。そのようなタイミングが合致する企画が今後計画されれば入館者数は増加すると思われる。
- (委員) 学習振興班のイベントの中で文字の読めない未就学児へのクイズについて課題もあったということに関して、わくわくたんけん室の中で何か体験することもできるのではないかと思う。例えばシールや絵を見つける活動を保護者が一緒に行い、見つけたものの内容に関して学芸員やアイリスの会などのボランティアの方が説明するなど一つの方法として考えられると思う。出張わくわくたんけん室もいいと思う。たたみ染めや歴史のあるものに関して、博物館から立地の離れた場所であっても、体験することもできる。またそれをきっかけに博物館に足を運ぶ方も増えると思う。普及・広報班の活動で博物館事業についてマスコミを通じて広報の充実を図っていると思った。チラシの効果はかなりあると思うので、学校にあればとてもいいと思う。SNSも高校生になれば早い周知なので、活用していければ博物館への関心が高まると思うので継続してほしい。
- (事務局) クイズ形式のものは、問題用紙を配って探してほしいというものになるのでどうしても未就学児の場合やはり厳しいものがある。そのため内容については小学校3年生以上を想定している。未就学児に対しては、折り紙やぬりえを配るだけでなく、今後検討していきたい。
- (事務局) アイデア提供という形で博物館で行っているものを東京などのイベントに提供している場合もある。いろいろなアイデアをいただければ柔軟に対応していきたい。
- (委員) 年間を通じて来館者数を見たとき、この時期は多いとかこの時期は少ないとかあれば教えてほしい。
- (事務局) 年間を見るとやはり冬場の来館者数が少ない傾向がある。7月～9月にかけて来館者が集中している。また、ゴールデンウィークや夏休みが多くなる。そのため、夏場の特別展が大きなウエイトになる。
- (委員) 秋田駅についての観光客が秋田の歴史を知りたいと思い、秋田県立博物館に行きたいと思っても、ちょっとアクセスが不便であったり、アクセス方法がわからないなどが影響しているのではないかと思う。県外の方に対する交通のアクセスの方法についてあまり周知されていないのではないかと思う。そのため、観光客が秋田駅についても、駅前周辺の散策で終わり、その後は男鹿半島巡りに流れてしまうのではないかと思う。JRとの観光キャンペーンと

リンクさせて、その期間SNSで交通アクセスを周知する方法もあるのではないかと思います。クルーズ船で海外の方が秋田に来たとき、秋田の歴史を知りたいと思うので、その時だけでもアクセス等を周知することができればいいのではないかと思います。

(事務局) 追分駅には秋田県立博物館までの道のりを案内してもらっている。

(委員) 追分駅からどのようにして博物館に行くのかがわからない。県外から来た方がわかるようにアクセス方法について工夫をする必要があると感じる。

(委員) 重要な課題ではあるが博物館だけでは対応しきれないところもあるので今後どのようにして連携していくのか考えていく必要がある。一つのアイデアとして、追分駅から博物館までのアクセスについて動画であげておくと、SNSを活用できる世代はそれを活用するのではないかと思います。

イ 協議 令和5年度ミュージアム活性化事業「特別展」の評価について協議会委員による外部評価のまとめ、来館者アンケート集計結果、「特別展」の分析と報告についての資料をもとに事務局より説明し、委員からの意見を伺った。

(委員) バasketボールの運営について携わっているが、いかにホームゲームでの観客者数を増やしていくのが課題であり、博物館においても入館者数の増加が課題ということを知り、ある意味共通のことと捉えている。本日の報告の中で興味深いと思ったのが大学生の研修や各種視察研修等の対応である。希望があって博物館に来て研修するとは思いますがその内容について教えていただきたい。本社では、大学生や高校生といろいろなコラボレーションしながら学生の観客者数を増やすようにイベントを企画しているところである。学生が望むことやどのようなことを学びたいのか見ていったときに、興味があるところにターゲットを絞り込んでSNS配信することによって、学生とマッチングしているのかと感じている。先ほどの報告の中でチラシは効果的であると説明を受けたが、やはり若者が興味を示すのはSNSであり、現在までは広報の割合は低いですが、今後はどのように展開していくのが私達の会社も課題である。学生の興味深いところ、アンケートで子どもたちがとても楽しかったことや職員が学生と触れあう中で学生がこのようなことを面白がっていたということなどを発信していくことが大切であると感じる。博物館の展示物を発信することももちろん大切であるが、学生が興味を示すことを発信することも大事であると感じる。博物館のyoutubeを見てみたが、残念ながら登録者数が少ないため、動画配信を充実させることで登録者が増えるしかけも必要であると感じる。これから県外の方も増えていくと思うので広報とすればSNSが大事になるのでうまく活用して増やしていただければ

と思う。

(事務局) SNSの展開がこれから大事になっていくと思う。博物館への大学生の参加の一例を挙げると、工芸担当職員と秋田県立大学との共同で「綿を紡ぐ」という博物館教室を実施する中で、それに関わるイベントでコラボレーションしている。秋田県立大学の農場で、実際に綿を育て、それを使って綿を紡ぐことを行っている。そういったことも今後大学や学校等の連携も増えてくると思う。若い人の方がSNSを使った情報拡散能力が高いと思う。博物館でもfacebookなどで情報発信を行っているが、今後は他の方法での情報拡散も強くしていきたいと考えている。

(事務局) 例えば美術館では、県内のものを学芸職員が自らが組み立てて企画することをやっているが、以外に県外から何かを引っ張ってきて県内の皆様に提示するケースが多い。そういった場合、何が見たいかというアンケートをとって、その要望に応じる形で外から引っ張ってくるという形である。博物館の場合、主体は自分自身で組み上げていくのが企画展であり、自分が研究しているもの、あるいはしたいものがどうしても前面にでてしまう。今回の人形博覧会は世情に配慮し、ニーズに配慮してテーマ設定をしたということであるが、自分が研究していて、そしてぜひ紹介したいというエネルギーと世間が見たいというエネルギーが重なるような形を今後模索していきたいと思う。数年前の鉄道展では学芸職員の見せたいと皆さんの見たいがマッチした例でありそういった例を参考にしながら検討してまいりたい。

(委員) 今回、課題がしっかり整理されているように見え、博物館でやらなくてはならないこと、やるべきことが見えていて前進していると感じる。人形博覧会については厳しめの評価をつけさせていただいた。今回の人形博覧会は全体的に小さくまとまったという印象が強く、特別展と銘を打って進める企画展であれば少ししかけを大きくしてほしいと思ったところである。子どもたちにも引っかけコメントを特別展のサイトなどに入れていった方が面白いことがあるかもしれないというワクワク感もでるのではないかなと思う。展示の構成については、個人的な感想であるが、歴史の古い方から近代へと紹介していったと思うが、逆の順に展示してみれば見え方が全然違ったのではないかなと感じた。ネイガーというローカルヒーローみたいのものも実はよく考えてみるとフィギアにだいぶ近いものであると思うなど、展示構成の中で展示のはじめにあれば来館者にとって、つかみとしてはいいのかなと感じる。そこから、過去をさかのぼって人形の歴史はどんな風であったのか説明したり、キーホルダーやフィギアなどいろいろな方面へ広がりを見せたりすることができたのではないかなと感じた。少ない博物館の職員で本当にご苦労されていると思うので、予算の確保をしながら、よりよい展示につなげていければと思う。仕事柄いいものを作ると人は絶対集まるというのは過去の経験か

ら確認しているので、そのような展示につながるようなものになればと思う。来年の昆虫展は、子どもたちには一番人気のあるコンテンツとしては王道をいくものになると思うので、ヒットするのではないかと思う。AKTとの連携なので、通常より早めにリリースを開始し、この夏は昆虫展があるよというのが早い段階で伝わっていくことが理想である。早い段階であればあるほど秋田県内だけでなくより他の地域にどうやって伝えていくのか戦略を立てやすくなる。紙面やその他の媒体の場合、通常1ヶ月前という時期から広報しているので、より早めにイベントなどを告知してもらうようお願いしたい。今後の活躍を期待している。

(事務局) 外部評価は厳しめに見てもらったほうがありがたい。それは、来館者アンケートは基本的に見たい人、興味ある人のアンケートなので、よく書いてくれる傾向がある。そのため、協議委員の皆様から、客観的に外の人の目をもって見ていただくことは非常にありがたい。

(委員) 8月の博物館協議委員会の後からすごく努力されていて、頑張っただけの跡がわかりすごいと感じている。わくわくたんけん室では何かを作った後に帰ってしまう傾向があるが、その後展示を見てほしいということに同意見である。展示の中に何かしかけがあるといいと思う。親子で来ている場合が多いので、例えば展示室の中でQRコードを読み込むと字が出てくる説明があったり、歩いてスタンプラリー的に展示を見たり、折り紙を開くと中に説明が書いてあるなどわくわく感を感じさせ、展示室の中を探検させる企画があってもいいのではないかと感じる。

(委員) 人形博覧会の県民のエピソードはとてもいい企画であったと感じる。全国のいろいろなところで人形展は行われているが、今回の特別展では秋田県民のエピソードを取り上げているため、心が温かくなった。展示に関して一方的に見るのではなく、県民の方が参加できる企画があるため一体感があると思った。今後の取組の参考として、青森県では青森アートミュージアム5館連携事業で5館が連携しそれぞれの館を見てまわることで、いろいろな学びであったり、地域活性化につなげたりするなど進めている。秋田県でも参考にして行くと、連携することでそのような効果があるのでないかと思う。SNSについてはJRでもあまりうまくいっていないため、反省も含めてお話しすると、公式のXも作っているが、作ることに主眼を置いているため、知ってもらう活動を同時にやらなければならなかったと感じる。登録者やフォロワーを増やすことを戦略的に行うことが重要であったと感じる。

(委員) 限られた人数の中で展示や研究をされていると思う。いろいろな紙面への寄稿や執筆に対してお礼申し上げる。メディア媒体へのリリースのタイミングについてはもう少し早くてもいいのではないかと感じる。弊社でも美術館や

博物館の企画展を紹介している内容の記事を掲載しているが、ピークの2週間前くらい前でないと、一般の人はなかなか予定を立てられない。ベストタイミングを計っていただければと思う。秋田県公文書館が30周年記念イベントとしてアルヴェで行った出羽一国御絵図の企画展では、秋田駅前という立地条件はあるものの、中高年の人や秋田市以外の方などかなりの人が集まったようである。絵図を取り上げた企画展は秋田市以外の方を集客するという面では効果的であると考え。アクセスについては表示の工夫について、例えばバスの行き先の表示の中で県立博物館というのがあれば利用する人が県立博物館へ行くのだとわかると思う。地域交通の在り方に関わるため一概にいいとはいえないが、SNSを使って告知する方法もあるのではないかと思う。事前のSNSの活用においては、企画展の日程だけでなく、企画展の目玉や企画展の見方の視点など少し詳しい内容について職員が発信するものに関心を持つ人もいる。公式HPのトップページにSNS、Instagram、facebookなどのアイコンがあると若い人ほどすぐアクセスして見に行くと思う。表示の工夫について今後取り入れてもいいのではないかと感じたところである。

(委員) 冒頭で館長も話したが、来館者数、入館者数は結果として、多ければ良かった、興味があるから来たということになる。来年度のこともこれから考えていかなければならないことから人形博覧会のリピーター、昆虫展のリピーターをどれだけ呼べるかがポイントになると思う。全年齢にバランス良くいろいろな面で満足させるのは難しいと思う。小学生や中学生の場合、一人でくるというよりは両親や祖父母など家族でくることが多いので、子どもが喜ばば両親や祖父母が喜ぶと思う。高齢者の場合、一人でくるときは学術的なことを求めてくるので、そこにどんな満足的なバランスを入れていくかが大事になってくるのではないかと思う。美術館、博物館までのアクセスの問題もあるが、その周辺の飲食店が充実しているかが大きいのではないかと思う。見るついでに食べるのか、食べるついでに見るのか、分からないが、複数的人数で行く場合、飲食店が充実しているかどうかは非常に重要であると考え。年に一回ぐらいキッチンカーなど利用するなど工夫があればいいのではないかと思う。台湾チャーター便に関しては県の誘客推進課が行っているので、連携して人を博物館に呼べる企画があってもいいのではないか。また、秋田駅周辺は人通りが多いので、ブースを設定し、現物を見せたり、企画展の紹介をしたりするなど、アンテナショップのようなものもかなり効果があるのではないかと思う。参考例として一例をあげた。

(委員) 連合婦人会の気持ちとして、博物館から催し物のチラシがきても、その時には計画を立てることができない。博物館協議委員会の資料の中で一年間の企画の計画が載っており、それを見ることである程度催し物の時期が分かったので、計画することができると思う。家族で考えると週の中程にテレビやCM

で企画の案内をいただくと、週末に車で家族で出かけられると思うが、高齢者の場合、交通の便の関係で一人ですぐには行けないし、団体の場合は日程がすぐには決まらないので、できれば年間の計画をいただければ幸いである。人形博覧会、大こうぶつ展を見学したが、決められた展示スペースであるが、次から次へ展示物を見ていくため、できれば休憩スペースがあれば助かる。展示物を見ながらいろいろと話をしてほしいが、他の展示物を見ている方の迷惑となるため、休憩スペースで展示物の感想について互いに話し合いたいと思ったからである。婦人会で団体利用した場合、次年度もまた来たいという要望は高い。高齢者の場合、博物館の全てを見るのは体力的に厳しいため、催し物のチラシを見て、今回はこの部分を見ようとする。そのため、ぜひ、年間の予定表をいただければ、年間の計画を立てやすくなるので、よろしくお願ひしたい。

(委 員) 人形博覧会、大こうぶつ展を見て思ったことだが、例えば音楽（BGM）とリンクさせるといいのではと感じた。青森県立美術館ではマルク・シャガール「アレコ」の展示とバレエ音楽をリンクさせることを定期的に行っている。普段は絵を見るだけだが、一日のうち何回かはバレエ音楽を流して絵を見るという演出の仕方があり、その時に人が集まる傾向がある。人形博覧会の場合、人形とリンクするBGMが流れる展示の日にちがあっても良かったと思う。大こうぶつ展では、秋田はお宝の宝庫であると感じ、県民歌の2番目の歌詞に「地下なる鉱脈無限の宝庫」とあるのでそれをリンクさせると面白いのではないかと思った。展示物を見るだけでなく、音からも印象づけられることも効果的ではないかと思った。食べると見るは関連性が高いので、特別展の時でも飲食店とコラボメニューがあればいいのではないかと思った。秋田の施設はかなり広いため、休憩室で少し休むことで、その後他の展示室に行く気力がわくのではないかを感じる。休憩スペースがないと、来館者は疲れて帰ってしまうのではないかと思う。

(委 員) 人形博覧会はとても良かった。娘もリカちゃん人形に関心を持ってくれ、機会があればリカちゃん人形関連グッズを購入して楽しんでいる。このような企画展をきっかけとして改めて人形の良さ、大切さ、いくつになっても人形との関わりがあるということを知ることができた。PTA関連の仕事をしているので機会があれば各学校において、大こうぶつ展のリーフレットを持参し、春休みなどを利用して企画展を見てみましようとしてほしい。

(委 員) 館長から基本的には館内にある資料をもとに展示の企画をしているのを知り、非常にいいことだと感じている。貴重な資料は展示を通して外部発信し、多くの方に知ってもらおうようにしてほしい。

(委 員) 人形博覧会はとても良かったので、入館者数を見てこれぐらいしか入らなか

ったのが意外と感じる。確かに広報の問題は昔からあると思う。テレビ、新聞、学校で子ども達一人一人に渡すチラシなどプッシュ型のものしか外部の方に届いていないのが現状であると感じる。公式HPやSNSなどは自分から情報を取りにいかねばならないため、情報にアクセスできない場合にはあきらめるなど昔から広報として効果が薄いと感じる。今回の館内アンケート調査結果報告の中で、情報入手先のSNS 5.3%、公式HP 16.7%を見たとき、昔から比べるとだいぶ増えてきたと感じる。博物館にアクセスすると良い情報や面白い情報が得られなければ、外部の方は情報をとりにきてくれないと思う。そのへんがこれからSNSを使って発信していく上でのポイントになってくるのではないかと思う。インスタグラムを始めるにあたり、他の博物館の発信方法や内容を見て参考に思うが、どのへんのやり方にするのかは考える必要があると思う。中の人をさらけ出してウケを狙う路線でいくのか、やはり情報の質を気にした路線でいくのか、ある程度方針をしっかりとって進めていったほうがいいと思う。県立博物館は総合博物館であるためいろいろな人に評価してもらう立場である。子どもにもお年寄りにも、マニアックで専門的な趣味の人にも、一般的な教養を求める人にも全ての人の要望に応えないと評価を得られないためつらい立場である。人形博覧会においてはより専門的なものにすることができたかもしれないが、一般的な教養を求める人向けに展示をしたのは総合博物館として立場があつてのことだと感じた。首都圏のように人口が多い地域では、狭い展示を行っても何万の人が集まるが、秋田では2, 3千人しか集まらないのが現状である。広報の工夫次第でもっと魅力をわかってもらえる余地があると思うので、できれば職員の割り振りで、そのようなものに主に関わってくれる職員の配置をある程度考えていくことも必要でないかと思う。展示と企画をやりながら広報もとなると無理があるのでチームで対応できればと思う。

- (委員) 小学校へのチラシの配付の効果が大きいということなので、今後も学校で協力してPRしていきたいと思う。資料のデジタルアーカイブ化といわれているが、学校では一人一台タブレット端末を積極的にツールとして活用している。そのため、いい教材になるのではないかと思う。人形に限っても、民俗のコーナーの中のショウキサマを見たりするがそこだけで終わってしまう。例えば、地域の方がどのようにしてショウキサマを作っているのかがわかる動画や歴史的な背景などが分かることができればもっとその先が広がると考えている。自動演奏ピアノについては実際に動画で演奏している姿や音を聴くことができる。自動演奏ピアノについては、どのようにして演奏するのか分からなかったが、動画を見て足踏みすることによって音を出していることを理解することができた。ちょっと広がりがあると、興味を持った子どもは自分で家族に頼んで博物館に行ってみてみたいとなる。セカンドスクールの利用が年々減ってきているが、デジタルの方を強化すると実際に学校で博物館に連れて行くことが減るのはやむを得ないと思う。入口はデジタルでもいい

けれども、興味を持った子どもは実際のものを見に行くということになるのではないかと思う。来年度の昆虫展は子どもたちは目を輝かせて博物館に行くのではないかと思うが、博物館の特別展には意味があると思うので、知的好奇心を満たすものにしてほしい。子どもは実際に昆虫を見たり、クイズをしたりして大満足だと思うが連れてきた保護者はQRコードを活用して昆虫の生息地や生態、絶滅危惧種など知ることができるなど広がりを持って発展していくと親世代も満足できるのではないかと思う。アクセスの問題については、追分駅から博物館までは遠いけれども、それを逆手にとって追分駅から何kmあって、約何歩で来られます、健康のためウォーキングをしませんかなどJR追分駅に博物館コーナーを設け、その中でルートを示すことができればと思う。また、博物館だけでなく、冬には小泉瀉公園の男瀉で白鳥が見られるとか、それぞれの季節で昆虫が見られるとか、希少生物がたくさんいるなど周囲の自然環境についても発信していくなどいろいろなアイデアがあると思う。

(委員) やはり人集めということが非常に大変だと思う。特別展も企画展もそもそも内容のニーズというところで多くの人を惹きつけられるものではないし、人が少ないとか、立地の問題もある。そうした中で、一般向けやマニア向けと両方に響く内容を用意しなければならないということで非常に難しいと感じる。大こうぶつ展においては、一般向けにはこのリーフレットでいいと思うが、マニア向けの情報提供ももう少しあっていいのではないかと感じた。SNSなどでは情報はいくらかでも載せることができると思うので、例えばマニアでも博物館にこないと見られないものがありますよという情報を発信し、一般向け、マニア向けの両方用意して発信することもあるのではないかと思う。

(5) 閉会